

審査の結果の要旨

秋山 直美

本研究は、日本では難しいとされてきた医療保険と介護保険の両保険制度が所有するデータを突合するための方法論を提示し、要介護認定高齢者のヘルスケアサービス利用およびコストへの季節要因による影響を検討した実証研究であり、下記の結果を得ている。

1. 日本では、医療保険と介護保険の保険者が異なり、両保険に共通した被保険者番号は存在せず、医療保険の診療報酬請求は完全には電子媒体になっていないため、医療保険と介護保険のデータを個人毎に突合することは難しいとされていた。しかし、本研究では、調査場所を一市町村に設定し、医療保険と介護保険の両保険制度が所有するデータ、および、質問紙のデータを個人毎に突合するための方法論を提示した。
2. 要介護認定高齢者のヘルスケアサービスの利用およびコストへの季節要因による影響について、次の4点について明らかにした。
 - ①在宅療養者の医科入院外サービスの利用および医科入院外医療費、調剤サービスの利用に、季節の影響があること
 - ②施設サービスの利用および施設サービス費に、季節の影響があること
 - ③医療保険サービス・介護保険サービスの利用およびコストに対する季節要因と世帯構成の交互作用が確認されたこと
 - ④在宅療養者の主な介護者の就労状況は、季節によって変動していたこと

以上、本論文は日本では制度設計上難しいとされていた、医療保険と介護保険の両保険制度が所有するデータを個人毎に突合する方法論を提示し、また、その方法論によって得られたデータが実証研究において活用するに十分耐えられることを確認した。本研究はこれまで研究が進んでいなかった **Public Health** 分野のアウトカムリサーチに対して、医療と介護が共有できるデータベースを構築するために重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。